

Ⅱ. 指導訓練事業（児童部門）

1. 概 要
2. 実 績
3. 個別指導・グループ指導
4. 世田谷区発達障害相談・療育センターとの連携
5. 保護者支援
6. スーパーバイズ

《児童部門》

1. 概 要

【目的】

発達・発育に遅れや障害のある乳幼児を対象に、心身の健やかな成長を図り、日常生活に必要な力や社会性を育てていくことを目的に相談・指導を行っている。

【形態】

- ① 運動機能やことばの遅れなど、障害の種別、発達段階に応じた指導を個別のプログラムに基づいて行う。(個別専門指導)
- ② 小集団での活動を通して、身近の自立に向けた生活面の指導や言語・社会面の向上を目的に、年齢や発達段階に応じたグループを編成して指導を行う。(グループ指導)

【対象者】

指導の対象は区内在住で、発達や発育に遅れや障害のある未就学児とする。指導訓練は、保護者同伴通所を原則としている。相談は18歳までとする。

【相談から指導・訓練への流れ】

相 談

- ①電話または窓口で相談を受け付ける。相談の内容により医療機関等紹介する。
- ②療育を希望する場合は、初回面接日を予約する。

初回面接・発達検査



- ①相談員が、主訴、成育歴、家庭環境等の聴き取りを行う。
- ②臨床（発達）心理士が発達検査を行う。
- ③乳幼児の状態に応じて後日、言語聴覚士が聴力検査・言語評価を、理学療法士、作業療法士が運動評価を行う。

小児専門医相談



小児科の専門医による面談を行う。

カンファレンス



評価等の結果を総合し、処遇方針を検討する。

評価会議



カンファレンスで検討した処遇方針を決定する。

※26年度より相談支援専門員が「児童支援利用計画」を作成

指導・訓練の開始

「児童発達支援計画」に基づいた指導・訓練を行う。

2. 実 績

(1) 初回相談・インテーク・専門医相談・評価会議 (単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
初回相談	50	59	81	46	58	53	51	65	63	71	69	64	730
インテーク	28	27	32	28	32	28	28	32	29	27	34	28	353
専門医相談	30	26	36	33	28	38	30	27	25	36	34	32	375
評価会議	34	40	30	18	31	19	39	32	30	29	10	48	360

※専門医相談・評価会議は、平成27年度にインテークをしたケースも含む。

(2) 評価会議後の処遇一覧 (単位：人)

処遇	心 理	言 語	理学療法	作業療法	保育G	終了他	計
人数	28	103	55	17	130	37	370

※複数の専門指導を受ける場合は、複数の職種に計上している。

(3) 検査・評価実績 (単位：人)

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
理学療法	新規	3	6	2	5	4	7	5	4	3	1	6	10	56
	再評価	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
作業療法	新規	7	5	4	2	1	4	2	3	11	7	10	6	62
	再評価	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	1	2	6
心 理	新規	28	26	33	28	32	28	27	32	29	27	34	28	352
	再評価	26	41	39	43	42	42	36	38	39	46	44	38	474
言 語	新規	24	23	32	32	25	28	22	27	32	28	28	29	330
	再評価	4	9	4	4	9	3	6	3	2	3	11	1	59
計	新規	62	60	71	67	62	67	56	66	75	63	78	73	800
	再評価	30	50	43	47	51	47	42	41	41	50	56	42	540

※新規は、インテークと他職種からの評価依頼を含む。

※複数の職種で評価した場合、主たる職種に計上している。

※言語は、聴力検査と言語評価を行っている。

(4) 指導内容別（延べ人数）

個別指導

（単位：人）

年度 \ 区分	理学療法	作業療法	心 理	言 語	栄養指導	計
28／法内 （児童発達支援）	1,653	850	1,361	1,163		5,027
28／法外 （児童機能訓練）	166	274	234	205	82	961
27／ 法内＋法外	1,824	1,339	1,652	2,016	76	6,907

グループ指導

（単位：人）

年度 \ 区分	保育グループ
28／法内 （児童発達支援）	3,289
28／法外 （待機・評価等）	769
27／法内＋法外	3,723

3. 個別指導・グループ指導

《理学療法》

(1) 個別指導

頻度：45分/回（頻度：個別 1～4回/月、経過観察 1回/2～6ヶ月）

指導内容

①身体機能	寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行等の発達促進 姿勢調整・保持能力向上促進
②日常生活動作・摂食指導	歩行や階段昇降等の移動手段を主とする日常生活動作獲得 個別訓練指導の中で摂食時の姿勢や口腔機能を確認、継続指導
③補装具・日常生活用具の活用・検討	車椅子、バギー、座位保持椅子、下肢装具、頭部保護帽等の検討
④環境調整	自宅訪問による、椅子等の用具類の工夫、住宅改修の検討
⑤他機関との情報交換	連絡メモを通じて保育園や施設等との情報交換

(2) 評価ケース〈58 ケース（内訳：新規57、再1）〉

疾患別	
1. CP群	1
2. 後天性脳障害	2
3. 水頭症	1
4. てんかん	2
5. 神経・筋疾患	0
6. 奇形症候群	1
7. 染色体異常	22
8. 脊髄疾患	1
9. PMR	14
10. 自閉症スペクトラム	1
11. MR	2
12. 運動発達障害	3
13. その他	8

出生時体重・周産	
低出生体重児	21
極低出生体重児	3
超低出生体重児	8
早産児	13
超早産児	6

処遇	
4/M	0
3/M	1
2/M	44
1/M	10
経過観察	2
評価のみ	1
他機関へ	0

医療ケア	
経鼻胃管	5
酸素吸入	5
気管吸引	1
腹膜透析	1

(3) 指導ケース〈148 ケース内訳〉

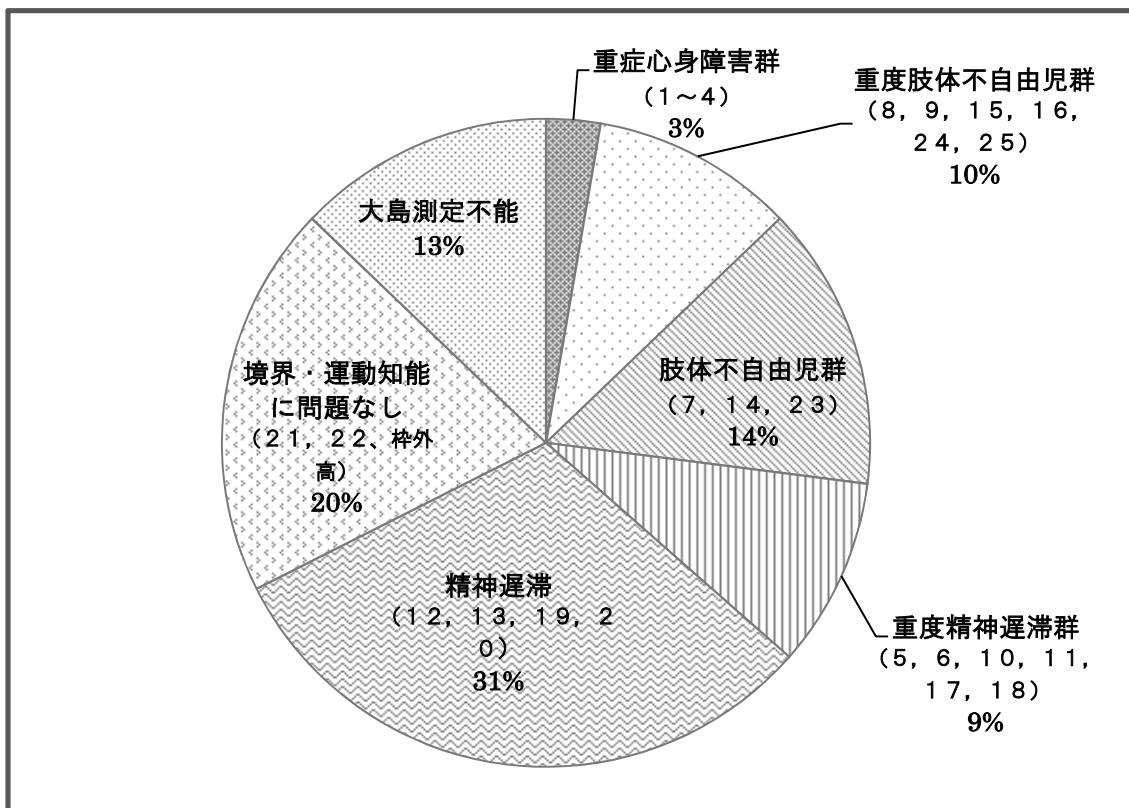
疾患別	
1. CP群	13
2. 後天性脳障害	0
3. 水頭症	1
4. てんかん	1
5. 神経・筋疾患	1
6. 奇形症候群	8
7. 染色体異常	67
8. 脊髄疾患	3
9. PMR	27
10. 自閉症スペクトラム	1
11. MR	4
12. 運動発達障害	4
13. その他	18

出生時体重・周産	
低出生体重児	58
極低出生体重児	6
超低出生体重児	13
早産児	31
超早産児	12

処遇	
4/M	3
3/M	5
2/M	85
1/M	38
経過観察*	17

大島の分類に基づく重症度分類（年度末時点での訓練ケース）

* 府中療育センター大島元院長が発表した重症心身障害児の区分



(4) 集団指導（ばんびグループ） 1時間15分/回（頻度：2回/月）

理学療法の個別指導を実施しているケースで構成される保育グループの一つで、未歩行児で、親子一緒での遊びを中心に、集団の体験と交流などを目的とする。

(5) その他指導・相談

相談・指導	件数
訪問指導	2
補装具・福祉用具相談	3
住宅改修相談	2

(6) スーパーバイズ

目的：評価・訓練・指導について知識・技術の向上をはかる。

内容：月1回、指導場面等をみていただき、終了後にカンファレンスを行って意見交換をし、アドバイスを受ける。また、年に1回、理学療法士だけでなく、作業療法士の他、他職種合同でのケース検討を行い、助言をいただく。

《作業療法》

(1) 個別指導

頻度：個別 2～1回／月、経過観察 1回／2～3ヶ月（60分／回）

指導内容

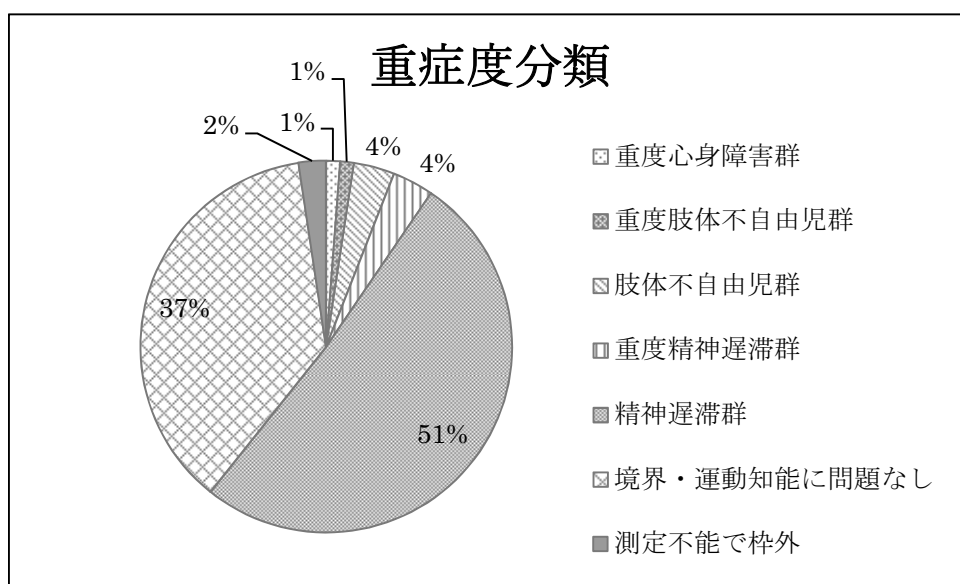
①粗大運動	バランスや協調運動、感覚調整能力の向上促進
②手操作	巧緻動作の向上促進、道具操作能力向上促進
③日常生活動作	食事・更衣等の動作の向上促進
④摂食指導	D r. 診察に同席し、摂食時の姿勢や口腔機能を確認 個別訓練指導の中で継続指導
⑤補装具・日常生活用具の活用・検討	バギー、座位保持椅子、保護帽等の検討
⑥環境調整	自宅への訪問による、椅子等の物品の工夫 住宅改修の検討
⑦他機関との情報交換	連絡メモを通じて保育園等や施設との情報交換

(2) 評価・相談ケース（84 ケース内訳）

疾患別	
1. CP群	4
2. 後天性脳障害	1
3. 水頭症	0
4. てんかん	1
5. 神経・筋疾患	1
6. 奇形症候群	4
7. 染色体異常	21
8. 脊髄疾患	0
9. PMR	10
10. 自閉症スペクトラム	36
11. MR	3
12. 運動発達障害	0
13. その他	3

処遇	
月2回	0
月1回	23
経過観察	22
いずれ再評価	2
評価のみ	25
相談	12

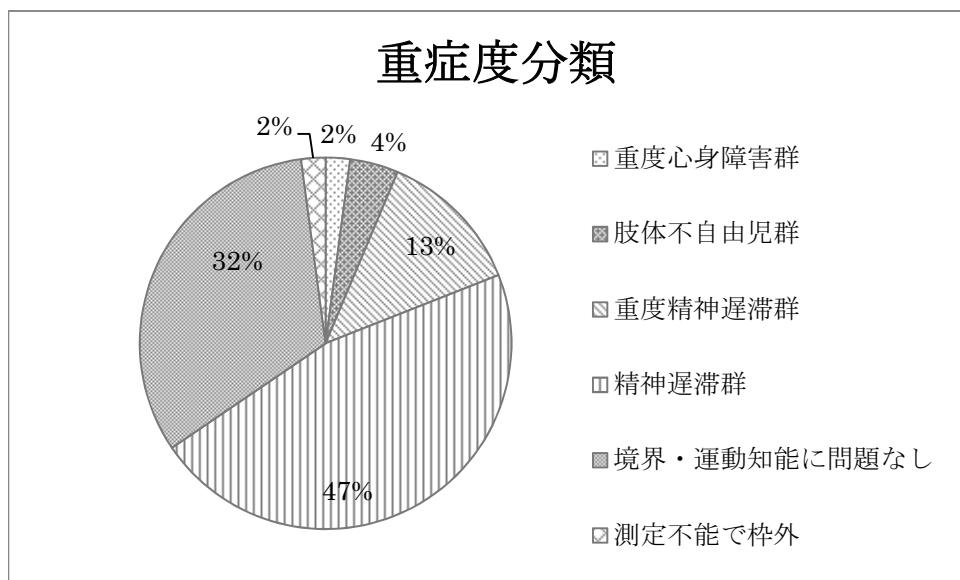
依頼元	
インテーク	26
医師	0
心理	9
言語	4
グループ	19
P T	25
再来	1



(3) 指導ケース〈154ケース内訳〉

疾患別	
1. CP群	14
2. 後天性脳障害	4
3. 水頭症	1
4. てんかん	5
5. 神経・筋疾患	2
6. 奇形症候群	8
7. 染色体異常	46
8. 脊髄疾患	0
9. PMR	26
10. 自閉症・PDD	31
11. MR	7
12. 運動発達障害	5
13. その他	5

処遇	
2/M	0
1/M	101
経過観察	51
相談	2



(4) スーパーバイズ

内容：ケース検討を通して感覚統合療法の視点に基づいた助言（3ケース）

回数：年2回（7月・12月）

- ①「発達性協調運動障害を併せ持つAくんへの作業療法」
- ②「トランポリンで走り回る4歳男児」
- ③「年中男児Cくんへの作業療法」

《心理》

(1) 個別指導

頻度：個別1回/月、経過観察1回/2～3ヶ月（60分/回）

指導内容

①認知課題	概念やカテゴリーの理解 模倣性の向上
②言語・コミュニケーション課題	やりとり性の向上 コミュニケーション手段の獲得（要求・意志表示等） 言語理解の促進
③社会性の課題	遊びのルール（交替・順番等） あいさつや社会的マナー
④手操作課題	はさみ・のり・筆記具等の扱い方
⑤就学に向けての課題	ひらがなの読み書き・数

相談内容：保護者の精神保健へ配慮しながら、子どもへの対応の助言・障害理解の促進を行う。
また就園・就学に向けた情報提供や支援を行う。

(2) 心理グループ

年長児グループ

1) 対象児

知的に軽度の遅れ～境界域で集団行動に課題がある児

2) 指導目的

- ①就学に向けて、集団活動のルールに沿って参加する機会を持ち、集団参加への意欲を育てる。
- ②身体を動かす課題や簡単なゲーム、手先の課題、学習の基礎となる課題などに取り組み、達成感を味わうことで、興味・関心の幅を広げる。
- ③大人や友だちとの関わりを通して、一緒に活動する楽しさを感じとりコミュニケーション能力を育む。
- ④就学に向けて、情報提供や保護者支援を行う。

3) グループ実績

	実施回数	実人数	延人数		実施回数	実人数	延人数
前期	10回	6名	50名	後期	12回	6名	50名

4) グループの概要

期 間	前期：H28年4月～9月（2回/月） 後期：H28年10月～H29年3月（2回/月）
職員体制	心理士2名、保育士1名 必要に応じてST、OTが入る
主な活動	着席課題・製作・ルール遊び・係活動

5) グループワーク（保護者対象）

・自己紹介（心理）
・グループの目的とねらい（心理）
・個別支援計画面談（心理）
・就学相談（心理）
・姿勢・運動（OT）
・コミュニケーション（ST）
・グループを振り返って（心理）

(3) 複数指導

目的	① 子どもへの指導では複数での活動（遊びや学習）を通して、他児とのコミュニケーションスキルを学習するとともに、対人関係や自己肯定感を育む。 ② 指導を通して、集団に参加する際に必要な配慮を保護者と考える。
構成・対象	【構成】 ・個別指導の枠内で、組合せ可能な児童で実施。
	【対象とする子ども】 知的に軽度の遅れ～境界域の児童。4～5歳児。 ・大人と1対1の場面では応じる力があり、認知面での改善が認められ、他児との活動を経験することが必要と思われるケース。
	【人数】 子ども：2名 担当心理士：2名
内容	<p>《子ども》 ルールあそび 役割あそび 協力しあう課題 先生の説明を理解し、模倣することばあそび（挙手し、答える） など</p> <p>《保護者》 部屋内や観察室から見学。 子どもの指導後、保護者へフィードバック。</p>

(4) 心理評価

検査バッテリー

新版K式発達検査2001、田中ビネー知能検査V、WISC-IV知能検査、
遠城寺式分析的発達検査法

- ① インテーク
352件
- ② 再検査：
474件
- ③ 処遇検討のための心理評価（行動観察による評価）
随時設定

《言語》

(1) 個別指導

指導内容

言語理解	聴理解・認知理解の向上
言語表出	語彙力・説明力・文の構成力の向上 構音の改善・吃音の軽減
コミュニケーション	ことばのやりとりの向上 ルールの理解（役割交替・ゲームや遊びでの会話のルール）

頻度：個別 1 回／月 経過観察 1 回／2～3か月（60分） 年長児の構音指導2回／月（30分）

(2) 言語グループ

① グループ実績

実施回数	指導実人数	延人数
21	16	94

② グループ概要

頻度：1～2 回／月 通年（前期 11 回・後期 8 回）

2～3 歳児グループ		定員	5～6 名
体制	言語聴覚士 2 名		
対象児	対人関係、認知発達に大きな問題がなく、主に言語発達のみが遅れのみられる 2、3 歳児とその保護者		
目標	1) ST と児、親と児、対象児同志、また小集団など、さまざまなコミュニケーション場面を設定し、言語発達を促す働きかけを行う。 2) 日常生活に生かせるよう、児に応じた望ましい働きかけを保護者に経験してもらおう。		

頻度：1～2 回／月 半期（後期 10 回）

年長児グループ		定員	5 名
体制	言語聴覚士 2 名 保育士 1 名		
対象児	知的能力は境界～正常域。個別指導よりも小集団での学習経験が必要な児		
目標	1) 小集団の中で考え、答える力を身につける 2) 視覚的なヒントを活用しながら、聴覚的理解力の向上を図る 3) 集団で学習するときのルールを身につけ、行動する 4) ルールのある遊びを友だちと一緒に楽しむ		

(3) 言語プール

① 指導目的

ア) 口を意識して動かすことで、流涎を減らす

- イ) 呼吸を整え、口を意識して動かし、発声・発音の基礎作りをする
- ウ) 水中でリラックスしながら、自然にことばを引き出し、コミュニケーション意欲を育てる
- エ) 水中の課題の中で、自然なスキンシップを促し、親子で一緒に活動することを楽しむ

②グループ実績

実施回数	指導実人数	延人数
9	6	24

③グループ概要

頻度：1回／月 通年9回

体制：言語聴覚士2名

対象児の参加要件：当センターに通所中の児の中から以下の要件を満たし、口腔の運動機能の向上が目指せる児

- ア) 目立った流涎がある
- イ) 動作模倣がある程度可能
- ウ) 簡単な指示（見本も見せながら二語文程度）に応じられる
- エ) 待つことができる
- オ) 親が子の安全を確保できる

(4) 言語評価

① 初回相談・聴力検査再検

	検査バッテリー	目的
聴覚	COR/Peep Show/Play/ 標準純音聴力検査 ティンパノメトリー	ことばを聴いて覚える幼少期に聴覚の問題があると、ことばの発達に影響を及ぼす可能性があるため、聴力低下や中耳炎の有無を確かめる。
言語表出・言語理解・構音	ことばのテストえほん	言語理解・表出・構音・状況説明等が総合的に確認できる検査。
	絵画語彙発達検査 (PVT-R)	理解語彙年齢が算出できる簡易な検査。名詞だけでなく抽象語の理解をみることもできる。
	構音検査	構音の誤りの有無や発声発語器官の運動の状態を確認できる検査。
	吃音検査法	吃音を客観的に評価し、症状を分析することができる検査。
その他	必要に応じて上記以外の言語等の検査を実施する。	
コミュニケーション態度	検査場面の様子を観察	アイコンタクトの有無、対人意識の有無、要求の方法、応答性などのコミュニケーション態度を観察。
問診	家族歴 (吃音・難聴の有無など) 既往歴	きこえやことばについての相談を受けたり、家庭での様子を確認する。

※初回接見時の状況や発達段階により検査内容に変更あり

② 言語相談・処遇変更

言語理解、言語表出、コミュニケーションについて教材を用いて確認し、評価方法として、構音検査・絵画語彙発達検査・S-S法検査・ITPA・LCスケール・吃音検査法等を実施している。

(5) スーパーバイズ

上智大学言語聴覚研究センター 専任教員 言語聴覚士 原恵子先生

第1回 6月21日	「言語発達遅滞男児の経過」 「当センターにおいて主に言語発達に遅れがあると診断された児童の就学実態」
第2回 10月18日	「発音不明瞭のあるASD児について」 「ST 年長児グループについて」

《保育》

◎グループ指導

- ・グループ編成：年齢や発達状況に応じてグループ編成を行っている。
- ・指導目標：グループ指導を通して、身の自立や集団生活に必要な社会適応能力を高め、よりスムーズに集団に参加できるよう援助する。
- ・指導の流れ

《支 度》	◎シールを貼る、自分のマークの場所にカバンを掛ける等の支度を行う。 ・身の回りのことを自分でしようとする力を育む。 ・活動の「始まり」を意識し、物の所有の認識を育む。
《あそび》	◎様々な道具や遊具を使って遊び、色々な感触に触れる経験をする。 ・遊びを通して集中力を育み、興味の幅を広げる。 ・手先の巧緻性や、目と手の協応動作等を育てる。 ・大人とのやりとりの中で、発語や言葉の理解を促す。 ◎大人と一緒に、全身を使って遊ぶ。 ・大人と一緒に遊ぶ中で、身体を動かす楽しさを伝える。 ・粗大運動を十分経験する事で、身体づくりをする。
《集 合》	◎友だちと一緒に一定時間着席課題に参加する。 ☆あいさつ ☆スキンシップ ☆体操・リズム・模倣あそび ☆ゲームあそび ☆楽器あそび ☆おはなし ・大人の簡単な指示を理解して行動し、大人の働きかけに応じる経験をする。 ・人や物に注目し、応答姿勢を育む。
《帰りのあいさつ》	◎簡単な手遊び、帰りの歌を歌う。 ・活動の「終わり」を意識する。

指導の概要

期 間	基本的には6か月（同グループでは1年）
職員体制	保育士・心理士・言語聴覚士・作業療法士・理学療法士
主な活動	・遊具を使っての運動あそび ・手操作玩具 ・机上課題 ・感触遊び（粘土・砂・豆など） ・製作（はさみ・のり・シールなど） ・描画（ペン・クレヨン・絵の具等など） ・水あそび（夏季のみ）

前期 グループ編成と実績

(単位：人)

	時間帯	グループ名	頻度	定員	実人数	延人数
2歳児	9：45～ 11：15	りす	月4回	8	8	135
		ぞう		8	7	105
		とら		8	8	132
		くま		8	8	140
3歳児	9：45～ 11：15	うさぎ	月4回	8	8	120
		ぱんだ		8	7	130
		こあら		8	9	112
	13：45～ 15：15	ひつじ	月2回	8	8	114
		きりん		8	8	108
		みつばち とんぼ		8 8	5 6	52 56
4歳児	9：45～ 11：15	ぺんぎん	月4回	8	6	87
		にわとり		8	8	162
	13：45～ 15：15	らいおん		8	5	89
5歳児	13：45～ 15：15	あらいぐま	月4回	8	5	69
広場	9：45～ 11：15	ばなな	月1回	8	9	37
		みかん		8	8	26
	13：45～ 15：15	もも	月1回	8	10	31
		りんご		8	9	29
いちご	8	9		30		
肢体系	9：45～ 11：00	ばんび	月2回	10	10	31
計					158	1,795

後期 グループ編成と実績

(単位：人)

	時間帯	グループ名	頻度	定員	実人数	延人数
2歳児	9:45～ 11:15	りす	月4回	8	6	97
		ぞう		8	8	125
		とら		8	8	146
		ねこ		8	8	136
		くま		8	9	140
		いぬ		8	8	139
3歳児	9:45～ 11:15	うさぎ	月4回	8	4	68
		ばんだ		8	5	95
	13:45～ 15:15	ひつじ		8	8	156
		きりん		8	7	129
		きつね		8	6	115
		あひる		8	6	105
4歳児	13:45～ 15:15	らいおん	月4回	8	7	121
5歳児	13:45～ 15:15	あらいぐま	月2回	8	4	25
広場	13:45～ 14:45	ばなな	月1回	8	8	34
		みかん		8	7	23
		もも		8	11	27
		りんご		8	1	1
		いちご		8	8	27
		肢体系		9:45～ 11:00	ばんび	月2回
計					140	1,765

※実績には、評価グループは含まない。

◎スキルアップの取り組み

- ・保育士の知識、技能向上のため、研修、講習会に参加している。
- ・平成28年度実績
 - 東京都発達障害者支援体制整備事業 発達障害者相談支援研修 8名
 - 公益社団法人発達協会セミナー 4名
 - マカトン法ワークショップ 1名

4. 世田谷区発達障害相談・療育センターとの連携

世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」と総合福祉センターでは、各々の専門性を生かした相談、療育を行っている。

社会性・コミュニケーションスキルの獲得等を目的とした療育が必要な児童については、世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」への移行を行っている。

平成28年度移行人数	60人
支援後の移行	43人
新規評価後の移行	17人

5. 保護者支援

先輩お父さんお母さんの話を聞く会

保護者支援の一環として、総合福祉センターを利用していた保護者の体験談を通じ、進路選びについて情報を得る機会を設けている。

実施日	内 容	参加人数
5月12日	就学について（第1回）	56人
5月16日	就学について（第2回）	55人
6月24日	就園について	58人

6. スーパーバイズ

各専門職のスキルアップのため、スーパーバイズを依頼している。

対 象 職 種	スーパーバイザー	回数
理学療法士・作業療法士	元心身障害児総合医療療育センター 理学療法士 原 泰夫 氏	月1回
作業療法士	うめだ・あけぼの学園 作業療法士 酒井 康年 氏	年2回
言語聴覚士	上智大学言語聴覚研究センター 准教授 原 恵子 氏	年2回